

はじめに

平成 27 年 1 月から中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会において、学習指導要領改訂の方向性について検討がなされ、8 月に「論点整理」がとりまとめられました。この「論点整理」の中で、「これまでの学習指導要領は、知識や技能の内容に沿って教科等ごとには体系化されているが、今後はさらに、教育課程全体で子供にどういった力を育むのかという観点から、教科等を超えた視点を持ちつつ、それぞれの教科等を学ぶことによってどういう力が身に付き、それが教育課程全体の中でどのような意義を持つのかを整理し、教育課程の全体構造を明らかにしていくことが重要となってくる」としています。さらに、「指導すべき個別の内容事項の検討に入る前に、まずは学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて『何ができるようになるのか』という視点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がある。その上で、整理された資質・能力を育成するために『何を学ぶのか』という、必要な指導内容等を検討し、その内容を『どのように学ぶのか』という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある」としています。

このことは、各教科等の内容を束ねれば、それが教育課程になるという考え方ではなく、各教科等の「内容」は、教育課程全体を通しての「資質・能力」育成の手段であるという発想に立っていると言えます。北海道高等学校長協会総合学科部会では、こうした課題意識を共有しながら、各教科等で育成される資質・能力の関連付けや内容の体系化を図っていくためには、総合学科の設立当初の理念である「個性を生かした主体的な学習による成就感体験」と「キャリア教育の充実」が不可欠であるとの認識に立って調査研究を進めてきました。その過程で、自校の教育活動・内容等が総合学科の理念を生かしたものとなっているかどうかを点検するために「特色ある総合学科作りのためのワークシート」を作成しました。このワークシートを作成する過程で、それぞれの「学校の教育目標（目指す生徒像）」と各校が「重視する生徒の資質・能力」が系列の特色となって表れているか、さらには「資質・能力を身に付けさせる」ための「3 年間を見通した生徒像実現のためのロードマップ」、「キャリア教育推進の具体的方策」、「北海道や地域の特色を生かした取組」になっているかどうかについて確認することができました。

北海道の高校は、総合学科に限らず、他府県にはない広域性の中で設立され、かつまた、その多くは小規模校でありながら、地域の人材育成に大きな成果をあげてきました。近年、北海道では、経済状況などになかなか明るい兆しが見えず、さらに、少子化や特に郡部における深刻な人口流出等の影響により、その存続自体が大きな課題となっている学校も数多くあります。加えて、世の中の産業構造も、生徒の能力・適性、進路希望等も、ますます多様化しており、まさしく「総合学科」の存在意義が問われていることを痛感しております。そのため、北海道の総合学科の高校では、生徒一人一人に、これからの時代をたくましく生き抜いていく力を育むべく、地域の特色を活かしたキャリア教育を推進し、教育活動の改善・充実を図っており、その現状や成果、課題について明らかにできるよう調査・研究を進めてきました。

本報告が、総合学科教育の改善・充実に少しでもお役に立てれば大変うれしく思います。